

ビワ生育情報

第 6 報
千葉県農林水産部
令和 7 年 3 月号

本年は「楠」、「田中」では寒害の発生はほとんどみられませんでしたが。
また、樹内でも出蕾がばらつき、開花が遅かった花房も多いため、果実の肥大は
平年より遅く、発育の程度もばらつきが大きくなります。

幼果の寒害及び肥大

ビワ幼果の生存率を表 1 に示した。樹冠外側の生存率は「楠」は 99%、「田中」は 94%
で平年より高く、樹冠内側も「楠」、「田中」ともに 100%で平年よりも高かった。

幼果は寒害を受けやすく、 -3°C に 2 時間以上遭遇した場合に発生が懸念される。暖地
園芸研究所の生育情報調査圃場では寒害がほとんどみられなかったが、館山アメダスでは
2 月中下旬にそれぞれ -3.7°C 及び -3.8°C の最低気温が観測されているため、寒害が発生
しやすい圃場では注意が必要である。

本作では、樹内でも出蕾がばらつき、開花のばらつきも大きくなった。また、開花盛期
は 3 品種とも平年より遅かった。そのため、果実の肥大は 3 品種とも平年より遅く、発育
の程度もばらつきが大きくなっている。果実の擦れ傷、虫害などを防ぐための摘果・
袋かけ作業は袋かけができる樹から早く進める。

なお、本年は、4～7 月の南房総地域における果樹カメムシ類の発生量が中発生と予測
されている。カメムシ類が飛来する量や時期は地域やほ場により差があるので、飛来量が増える
4 月下旬以降に園内外をよく見回り、飛来がみられた場合には、千葉県農作物病害
虫雑草防除指針に従って防除を行う。

表 1 ビワ幼果の生存率（暖地園芸研究所）

品種	樹冠の外側(%)			樹冠の内側(%)			内外の平均(%)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
楠	99	65	100	100	89	100	100	76	100
大房	-	83	100	-	94	100	-	88	100
田中	94	78	100	100	92	100	97	85	100

調査日：令和 7 年 3 月 7 日

「大房」は調査時点で花たくが閉じていないものが多いため未実施

平 年：平成 11 年～令和 6 年の 27 年間の平均

令和 7 年 2 月の気象

令和 7 年 2 月の半旬別の気象を表 2 に示した。平均気温は平年に比べ、第 1、第 3、
第 6 半旬は高く、第 2、第 4、第 5 半旬は低かった。月平均気温は 7.1°C の平年並みで、
前年よりも 2.0°C 低かった。

氷点下日数は 12 日で、最低極温は第 2～6 半旬で平年よりも低くなった。最低極温は
第 5 半旬の -3.8°C であった。

降水量は第 3 半旬は平年より多く、第 1 半旬は平年並み、その他の半旬は平年より少な
かった。月合計は 31mm で平年の 35%、前年の 29% と少なかった。

日照時間は第 2～第 6 半旬は平年より多く、第 1 半旬は平年より少なかった。月合計は
211 時間で平年の 138%、前年の 159% と多かった。

表2 令和7年2月の気象(アメダス館山市)

半旬	平均気温 (°C)			氷点下日数 (日)			最低極温 (°C)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
1	7.0	6.3	7.4	0	2.0	0	1.1	-1.8	1.8
2	5.6	6.5	5.9	3	1.6	0	-2.0	-1.2	0.0
3	8.1	6.9	11.6	2	1.8	0	-2.5	-1.5	0.8
4	6.7	7.3	14.2	2	1.3	0	-3.7	-0.7	6.6
5	5.0	7.7	6.8	5	1.3	0	-3.8	-0.6	0.8
6	10.5	8.1	8.7	0	0.7	0	0.5	1.0	2.1
平均/計/最小値	7.1	7.1	9.1	12	8.7	0	-3.8	-1.8	0.0

半旬	降水量 (mm)			日照時間 (hr)		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年
1	11.0	12	43.5	19	29	11
2	0.0	11	0.0	41	28	24
3	18.5	13	0.5	41	28	40
4	1.0	17	9.5	39	27	17
5	0.0	20	46.0	46	27	10
6	0.0	14	6.0	26	16	32
計	30.5	87	105.5	211	154	133

平 年：1991～2020年の30年間の平均

最低極温：各半旬あるいは2月中に記録した最低気温

なお、表の数値は、表示単位未満を四捨五入したため、合計値と内訳の計が一致しない場合がある。

4月の作業

4月になると平均気温が一段と高くなって枝葉・根ともに伸長が盛んになり、果実の肥大も急速に進む。3月に続き、摘果・袋かけが重要な作業になる。

摘果・袋かけ

4月に向けて平均気温が高くなり、果実の肥大が進むと擦れ傷、虫害などを被りやすくなるので、摘果・袋かけ作業は幼果の状態を確認しながら早目に進める。

除 草

春草が繁茂する時期になるので、収穫が始まる前に除草を済ませる。草生栽培では、有機物の補給のため草を刈り取って樹冠の周縁に敷くとよいが、労力の足りない場合は除草剤を利用する。

発行：千葉県農林水産部生産振興課園芸振興室

【問合せ先：千葉県農林総合研究センター暖地園芸研究所特産果樹研究室
電話 0470-22-2961】

※果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生育情報」でも御覧いただけます。
<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>